

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171700083		
法人名	医療法人財団 友朋会		
事業所名	グループホーム千寿荘(寿A・B)		
所在地	佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿乙19191		
自己評価作成日	令和元年12月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和2年2月4日	外部評価確定日	令和2年3月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ol style="list-style-type: none">1. その人らしさを尊重し生活支援を行う上で自己決定権を尊重した援助方法を大切にしている。2. 芸術療法士が絵画療法や陶芸療法に関わり、利用者様は生き活きとした表情で作品作りに取り組まれている。またご家族に作品を見て頂き、残存能力を知ってもらおうと共に日頃の活動について理解してもらっている。3. 季節に応じた野外活動を行い、季節感を感じてもらっている。毎年行う日帰り旅行や餅つき会では利用者様とご家族のふれあいが深まり、良い思い出作りが出来ている。4. 敬老会後に開催する家族懇談会では主治医をはじめ、他職種が参加しご家族の質問や要望に応じている。5. 年間を通して行った行事や日頃の様子を写真に収め、敬老会のスライドショーで紹介し利用者様やご家族に見て頂き楽しんでもらい理解を深めてもらっている。6. グループホーム千寿荘新聞「鶴亀たより」を発行し、利用者様の生活が見えるようにしている。7. 認知症病棟での経験豊富な職員が配置され、各ユニットに看護師が1名ずつ常勤で配置されている他、介護職の6割以上を介護福祉士が占めるなど質の高いケアを提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、広大な敷地内に複数ある法人施設のひとつとして存在している。平成10年に開設され、長年にわたって培われた経験や知識が、質の高い支援の提供となって現れている事業所である。理念の「家族愛のもと、長年にわたって培った技を普段の生活の中で活かしてもらえるように支援します」が5項目の基本方針として実践されている。環境が整えられ、古民家風な建物の中で、利用者は自分の家にいる様な感覚で、おだやかにゆっくりと毎日を過ごしている。職員は、ワンチームとして心をつなげて、利用者本位の支援にあたっている。芸術療法士による支援は、この事業所の大きな特徴でもある。その作品には、利用者の自信と残存能力が感じられる。</p> <p>利用者の楽しみである食事は、三食とも事業所の台所で調理し、希望を取り入れた献立でもある。食材の買い出し、調理は職員の担当を決めるなどの工夫がある。初詣、花見、ホテル狩り、餅つきなど利用者の希望を取り入れた行事が毎月計画され、毎日の暮らしに変化をもたらしている。</p> <p>毎日自己を振り返り、皆で考え、諸支援をチェックして、より質の高い支援を追い求めている事業所である。</p>
--

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/A)	自己評価(ユニット名/B)	自己評価(ユニット名/C)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念や基本方針を朝のミーティング時に唱和し、個別にあった関わりをしている。調理(下ごしらえ)、農園芸、活動等、日々その人ができることへの取り組みを実践している。	休止中	休止中	法人の理念を踏まえて、事業所独自の理念と基本方針を創っている。「接遇表」「危機管理標語」も定めて、2か月毎に更新もしている。理念、基本方針の毎日の唱和と標示は、スタッフがワンチームにまとまり、自己を振り返る基にもなっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には地域の老人会、住民にメンバーとして入って頂き、行事のお知らせをして参加の呼びかけも行っている。毎年嬉野市役所へ連絡し、文化祭への出品展示の確認を行い作品コーナーも設けてもらっている。そのコーナーには日頃利用者様が作成された作品を展示し、見学に行くのを楽しみにされている。	休止中	休止中	法人自体が地域とのつながりを重視しており、事業所もできる範囲内で地域との連携を大事にしている。法人の一員としての地域の清掃活動への参加、地域の方のボランティア訪問、市文化祭への出品、秋祭りでの住民との交流、地元高校とのつながりもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の作品展示会に運営推進委員から地域の方に参加を呼び掛けてもらったが参加は得られなかった。また地域住民と触れ合う機会もなかった。今後も継続して取り組んでいく。	休止中	休止中		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/A)	自己評価(ユニット名/B)	自己評価(ユニット名/C)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者の状況や行事報告、今後の行事予定などを報告し、それに対する意見、提案などを伺っている。また利用者と一緒に食事や会話をしている。献立についての感想や意見を聞いたりしている。外部評価の結果についても報告し、意見を出してもらい次に活かしている。	休止中	休止中	年に6回開催されている。単に報告に終わることが無く、各委員から、質問や意見、地域の情報提供などがあり、有意義な会議となっている。外へ出たがる利用者への支援、室内の足元が暗く感じる場所にLED照明の設置、身体拘束適正化に関する資料の提供、外出先の情報など、その後の支援に活かされている事例は多い。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の介護相談員派遣事業を受け、利用者から意見などを聞いて頂き、気軽に話し合っておられる。利用者からの意見を聞かれた後には、介護相談員と職員とで情報交換を行っている。嬉野市西部地域包括支援センターとは運営推進会議で情報交換を行っている。	休止中	休止中	主に運営推進会議での相談や情報の共有が多いが、行政と連携は密に取れている。利用者の社会保障に関係する場合は、ケースワーカーが行政の福祉担当課等に出向いてきている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者は法人の身体拘束廃止委員会に出席し、職員へ伝達講習を行い理解を深めている。また研修会や勉強会へも参加している。事業所独自でも3ヶ月に1回研修会を開催し意識向上に努めている。基本方針に身体拘束をしないことを明記すると共に毎朝業務開始前に唱和し声を出して意識づけを行っている。屋外への散歩等個別対応して利用者の精神的拘束感を軽減出来るようにしているが、利用者の無断離荘の可能性が高く、現在危険防止のため玄関の施錠をしている。	休止中	休止中	法人での研修会や外部研修会への参加、事業所独自での勉強会、管理者(所長)の具体的な指導もあり、職員の身体拘束が無いケアの意識は高い。言葉での拘束も無いケアである。利用者の状況により止むを得ず、家族の理解を得ての、玄関の施錠であるが、ホームの周りを一緒に散歩したり、畑を見学する、ゴミ出しに一緒にするなど、閉塞感が無いようにと支援している。職員でペアを組んでの勉強会の工夫は、職員の拘束のない支援への意識をより高めている。	

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/A)	自己評価(ユニット名/B)	自己評価(ユニット名/C)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	友朋会の高齢者虐待防止・対応マニュアルの学習会や『不適切行為に対するアンケート』を行い振り返りを行っている。また毎日入浴時に全身の観察を行っている。現在家族からの意見・苦情はない。毎朝業務前に接遇に関する標語を唱和し、また職員間でヒヤリハットの事例を基に検討会を行い周知している。	休止中	休止中		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は弁護士が出席される法人の人権擁護委員会に参加し、事例をもとに話し合う機会がある。また職員は看護部教育委員会の人権に関する研修会に参加している。	休止中	休止中		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の見学時にリーフレットを渡し簡単な説明を行っている。入所時には利用者、ご家族と十分に話し合える時間を取っている。必要に応じて千寿荘担当の精神保健福祉士と連携を図っている。また介護保険改定時には利用者、ご家族に改訂した利用説明書を提示し、説明を行い同意を得ている。	休止中	休止中		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/A)	自己評価(ユニット名/B)	自己評価(ユニット名/C)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談の流れを掲示し意見箱も設置している。公的相談窓口のマニュアルも掲示している。介護相談員の訪問を受け、利用者から話を聞いて頂いているが、現在苦情は発生していない。訪室時に利用者から生活環境面等について困った事はないか尋ねている。ご家族の面会時に利用者を交え近況の情報提供を行っている。年1回のアンケート調査でご家族の意見を運営に反映させている。	休止中	休止中	ご意見箱の設置、家族アンケート、面会時の笑顔のある声かけ、行事への家族の参加時など、あらゆる機会を通して、家族の意見や要望等に耳を傾けている。ご意見箱は、まず法人の係りがご意見箱を開き、内容を確認・把握している。家族アンケート結果を会議で考察して、その後の運営に活かしている。また、ホームだより「鶴亀だより」毎月の「家族へのお知らせ」は、家族との良好な関係維持の一助にもなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	千寿荘会議を月1回開催し、運営に関する意見や提案を出してもらい検討している。議事録を記載し全職員に周知できるようにしている。意見を述べる機会を作り相互理解につなげている。管理者は法人の定例運営会議で開設者との意見交換を行う機会がある。また事務局長や事務長、看護部長、担当師長が巡回時に職員の意見を聞く機会がある。	休止中	休止中	定例の会議時だけでなく、管理者は普段から職員の声に耳を傾け、運営に活かすように努めている。伝達ノートの活用、援助記録用紙の工夫、居室のベット位置、職員同士の声掛けの留意点、餅つき会の工夫と評価、室内照明の工夫、働きやすい環境整備、その他多くの事例がある。	

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/A)	自己評価(ユニット名/B)	自己評価(ユニット名/C)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の労働安全衛生委員会の「メンタルヘルスサポート体制」を示し、相談はいつでも行えるように掲示している。労働安全衛生委員会の職場巡視の際にも設備面や労働環境全般に対して要望を述べる機会がある。また法人の看護部長が毎年6月に職場環境調査や職場ニーズ調査を行い、職員から直接意見を収集できる仕組みがある。代表者である理事長には運営会議の場や毎月の管理日誌、種々の書類を提出している。年度末に人事考課システムがあり、職員個々の実績評価をされている。院外の研修を希望する職員に対し時間や費用などの支援が整備されている。	休止中	休止中		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症ケアの質の向上の為に認知症介護実践者研修、介護支援専門員研修に該当者を参加させている。また介護福祉士・介護支援専門員の資格取得に向けての支援や院内外への研修会に参加できる様に職員の人員を確保している。また看護、介護実践能力評価表に基づき基本的な知識・技術・態度が身についているかを自己評価した上で他者評価を行い段階的なレベルアップに努めている。	休止中	休止中		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/A)	自己評価(ユニット名/B)	自己評価(ユニット名/C)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と 交流する機会をつくり、ネットワー クづくりや勉強会、相互訪問等の活動 を通じて、サービスの質を向上させて いく取り組みをしている	佐賀県グループホーム協会 主催の研修会に参加し同業 者との交流を図っている。他 の職員には伝達講習を行 い、サービスの質の向上へ の取り組みを行っている。	休止中	休止中		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、 本人が困っていること、不安なこと、 要望等に耳を傾けながら、本人の安 心を確保するための関係づくりに努 めている	本人の不安や困っているこ とに対し、可能な限り関わり を多く持ち緩和に努めている。 特に初期は責任者が関 わり、状況を把握し他のス タッフと共有することで安心 できるように努めている。ご 家族に対しても面会や電話 での関わりなど協力を頂い ている。	休止中	休止中		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、 家族等が困っていること、不安なこ と、要望等に耳を傾けながら、関係づ くり努めている	ご家族からの不安や要望に ついては親身になって聞き、 電話や文書で返答してい る。必要に応じて介護支援 専門員や担当の精神保健 福祉士にも相談し、責任者 と共に話し合いの場を設け ている。ご家族の思いや状 況を理解し、いつでも相談し やすい雰囲気作りに努め信 頼関係の向上に努めている。	休止中	休止中		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、 本人と家族等が「その時」まず必要と している支援を見極め、他のサービ ス利用も含めた対応に努めている	利用者やご家族のニーズを 基に作成したケアプランに 沿ってサービスを提供してい る。	休止中	休止中		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/A)	自己評価(ユニット名/B)	自己評価(ユニット名/C)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の関わりの中で、感謝、共感の言葉を使うようにしている。能力に応じた役割をお願いし、職員と一緒に会話を大切にしている。本人の意思や希望を尋ね、気持ちを尊重するとともに意欲アップにつなげている。	休止中	休止中		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ毎月郵送している健康についての「お知らせ」に行事案内を加え参加を呼びかけている。参加されたご家族と利用者、職員は和気藹々とした雰囲気の中で交流を深めている。また面会時には近況報告等も行っている。行事や利用者の生活状況が分かるように千寿荘新聞「鶴亀たより」を定期的にご家族へ郵送したり、敬老会では日々の様子や年間の行事の写真をスライドショーとして紹介し、利用者、ご家族に楽しんで頂き理解を深めている。	休止中	休止中		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	かかりつけ医の病院受診を希望される方へは家族に協力してもらい受診されている。また買い物は行きつけの店に同行してもらい、美容室も継続して利用できるように支援している。	休止中	休止中	これまでの人との関わりや親しんだ場所等の把握に努め、それを支援につなげている。馴染の美容室の利用、彼岸まいり、正月を自宅で過ごす外泊、友人の訪問、馴染のある地域や公園までのドライブ、近くの神社での初詣で等いろいろな支援事例がある。	

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/A)	自己評価(ユニット名/B)	自己評価(ユニット名/C)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの関係を考慮し、利用者間の関係が良好に保てるようにテーブルの席や入浴の順番にも配慮している。毎日の掃除や洗濯物たたみ等の時間を利用し交流の場としている。下膳できない利用者の下膳をして頂いたり、利用者の能力に応じてお互いに助け合える関係作りを支援している。	休止中	休止中		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設医療機関への入院の為、退荘された後訪問し病状を尋ね見舞いに立ち寄りしている。	休止中	休止中		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者1~2名に対し職員1名の担当制も取り入れ、利用者の思いや希望など意向の把握に努めている。料理の下準備として魚をさばいたり野菜を刻んだり、食後の後片付け等、生活リハビリとして自立支援をめざしている。	休止中	休止中	入居時の諸情報だけでなく、入居後は利用者の心に寄り添いながら意向の把握に努めている。利用者の担当制は、利用者の思いをより深く関わりを持つことが出来る。担当者を発信元にして、利用者の意向を全職員が共有するシステムも工夫されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族より生活史として情報収集し介護計画に活かしている。利用者の状態やご家族その他利用者を取り巻く環境について、毎年データベースの見直しを行い、最新の情報を基に介護計画に活かしている。	休止中	休止中		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/A)	自己評価(ユニット名/B)	自己評価(ユニット名/C)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	援助項目に沿って日々の記録、また各勤務帯で利用者の状況がわかる記録を行っている。サービス計画書の6か月毎の評価、3ヶ月毎のモニタリング、サービス担当者会議で他職種の情報も含め把握・評価ができるようにしている。	休止中	休止中		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者及びご家族から面会の際にサービスに関する要望等を聞いている。サービス担当者会議では利用者、ご家族、計画作成担当者、受け持ち職員、精神保健福祉士、芸術療法士などの出席を得て、ニーズや課題、援助内容を検討している。担当医や参加出来ない職員は事前に情報提供を行い書面での参加としている。	休止中	休止中	全職員が一体となって作成された具体的で実現可能な介護計画である。利用者や家族の意向を十分にくみ取り、計画に反映させている。担当者会議には家族も出席している。週間サービス計画表、日課計画表、担当者会議の要点、アセスメント結果、工夫改善したモニタリング記録、介護支援専門員の経過記録も整備されている。計画の見直しも、きちんと行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス計画書に沿ったケアの内容を共有しながら実践している。実践した内容は援助記録に残し、3か月毎に記録している日常生活動作能力経過表の評価と共に必要に応じて朝のミーティングや千寿荘会議で提案し介護計画の見直しに繋げている。	休止中	休止中		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者に対し、その時々に応じて内科や眼科など受診しやすい環境である。行事にボランティアの方に参加して頂いたりしている。散歩や法人内の散策などにも取り組み気分転換を図っている。	休止中	休止中		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/A)	自己評価(ユニット名/B)	自己評価(ユニット名/C)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設施設内の喫茶店で飲食を楽しんでもらっている。市報「うれしの」「県民だより」で情報を収集し、地域の行事への参加につなげている。	休止中	休止中		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関への受診が必要となった場合は本人、ご家族の希望のかかりつけ医にご家族の協力を得て受診してもらっている。また協力医療機関である嬉野温泉病院や宮原歯科医院と連携を図っている。	休止中	休止中	家族や利用者が希望する病院での受診である。母体病院での受診では顔なじみの主治医でもあり本人や家族も信頼と安心感がある。母体病院での受診には職員が付き添い、支援をしている。主治医の診断結果は家族に報告している。希望によってはセカンドオピニオンについて家族に伝えている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2名の看護師を配置し勤務している。日常的な健康管理を行い身体的、精神的状況の把握に努めている。介護職員は看護師と連携を図り、情報の報告、指示、助言を受け、必要な対応を行っている。また法人の日当直師長や外来看護師の協力も受けている。	休止中	休止中		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設施設に利用者が入院された場合は希望により「在籍取扱い」の申請をしてもらい、1か月間を限度に居室の確保をし戻れる体制を取っている。職員が面会に行き、病棟スタッフとの情報交換を行い、回復状況を見て再入所可能な場合は早期に退院出来るようにしている。併設医療機関以外に入院の場合は地域連携室と連携し、診療情報提供書による情報提供を行っている。	休止中	休止中		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/A)	自己評価(ユニット名/B)	自己評価(ユニット名/C)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用説明書に重度化した場合の対応について明記している。入所時に利用者・ご家族に説明し、ご意見を聞きながら方針を共有している。急変時対応希望書に心停止や呼吸停止、外傷などによりご本人との意思疎通が取れなくなった時や、ご家族とすぐ連絡がつかない場合の対応について具体的な項目を選択して頂きサインを得ている。ご家族の要望を取り入れるため併設施設や地域の医療機関との連携を図っている。	休止中	休止中	入居契約時に重要事項説明の一つとして「重度化した場合の対応」について家族の納得のいく話し合いを行っている。看取り介護は行っていないことにも理解をもらっている。「利用者にとってどう対応した方が幸せか、安心か」を話し合い、方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急処置用物品の整備と使用法の研修を行い、応急手当のマニュアルや併設病院への緊急連絡網を明示し活用できるようにしている。AEDの取り扱いについては、職員全員が併設病院の研修や伝達講習で使用できるようにしている。急変時の対応(連絡を含む)がスムーズに行えるよう定期的に学習会を実施している。	休止中	休止中		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体の火災・災害訓練に参加し、避難における知識、技術を学んでいる。またホーム独自でも定期的に初期消火、通報・連絡、避難誘導訓練を行っている。地域との連携については併設病院の協力のほか、法人全体の火災・災害訓練に嬉野医療センターも参加され共に協力体制ができています。火災通報装置、またスプリンクラーが設置されている。	休止中	休止中	「防火・防災管理規定」に則り、法人全体で年2回、夜間及び昼間を指定した災害訓練に参加している。消防署の立ち会い、指導も受けている。千寿荘独自にも年に4回、計画的に誘導・避難訓練を実施している。ハザードマップ地帯に含まれており、溜池決壊に備えての避難訓練も実施している。風水害対策マニュアルも備えている。	

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/A)	自己評価(ユニット名/B)	自己評価(ユニット名/C)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	方針に「人権擁護」を掲げ、接遇に関する標語を毎月更新し、毎朝ミーティングで唱和している。利用者の人権尊重を意識した関わりが出来るように努めている。併設病院の教育委員会主催の人権擁護に関する研修に参加し、意識向上に努めている。	休止中	休止中	利用者一人ひとりの尊厳の尊重、人権擁護をすべての支援の基礎にしている。法人内や事業所独自に研修会や勉強会を開き、意識を高めている。トイレ誘導、同性による入浴支援、羞恥心への配慮、利用者の耳にも届く職員同士の会話のあり方にも留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝の集いの時間にその日の体調を含め、一日の過ごし方について自己決定できる機会としている。思いや気持ちを出さない方には個別に関わり、その方の気持ちに沿うよう心がけている。	休止中	休止中		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	週間サービス予定表や日課表は個別に作成しているが、利用者のその日の体調を尋ね把握した上で、体調に応じた利用者本位の支援を行っている。	休止中	休止中		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝はポイントメイク、外出時は簡単なメイク、入浴後は化粧水など、利用者の好むおしゃれを支援している。また外出時には普段着から外出着へ衣類の選択支援を行っている。入所前からの行きつけの理美容院へ行けるように職員が同行したり、ご家族へ協力を依頼している。	休止中	休止中		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/A)	自己評価(ユニット名/B)	自己評価(ユニット名/C)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月1日は赤飯を炊き、季節の山菜、旬の食材を使った献立としている。魚は鮮魚店と契約し、新鮮で種類も豊富で食べやすい形で提供している。利用者が好まれる刺身も提供している。誕生日にはそれぞれ利用者の好物を献立に取り入れている。料理の下ごしらえや後片付けなどは、利用者の意志、希望を尊重し一緒に行っている。週2回の朝食時のパンを希望されない利用者にはご飯を提供する等柔軟に対応している。	休止中	休止中	高齢者向きのおいしい食事が提供されている。三食とも事業所の台所で調理されており、調理の音や匂いは利用者の食事への関心を高めている。利用者は自分のペースでゆっくりと食事を摂っている。職員も検食を兼ねて、それとなく見守りながら一緒に食事を摂っている。献立はスタッフが立てている。食材の買い物や調理は職員の担当制をとる工夫もある。師長や芸術療養士が利用者と一緒に食事することも時々ある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立作成については現在には必要に応じて管理栄養士の指導を貰っている。月2回の体重測定の結果を参考にカロリーや栄養バランスには留意している。個々の利用者の嗜好やアレルギー食材等の把握も行い配慮している。義歯の有無や状況に応じて主食の二炊きや副食のキザミ食等、摂取しやすいように支援している。食事摂取量については毎食ごとに記録に残している。水分については食事以外に10時、15時、入浴後等にお茶やコーヒー等、希望されるものを摂ってもらっている。ポカリスエット等を常備し必要に応じて摂ってもらっている。	休止中	休止中		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/A)	自己評価(ユニット名/B)	自己評価(ユニット名/C)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の際、義歯の装着具合や摂取状況を見ている。毎食後に歯磨きや義歯洗浄の支援も行っている。また毎食後は嗽薬でうがいをしてもらい、飲み込まれる方にはお茶を利用している。週に1回ポリドントによる義歯洗浄や歯ブラシ、コップの洗浄も行い清潔にも気を配っている。嚥下力や口の周りの筋力アップを目標に「健口体操」を行っている。	休止中	休止中		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入所日から7日間と年度初めの3日間は排尿排便の時間や性状を排泄管理表にチェックし、個別の排泄状況を把握している。誘導はさりげなく早めに声かけを行い、安易に紙おむつ等は使用せず、トイレでの排泄に向けた自立支援を行っている。	休止中	休止中	綿密な観察と管理票によって、利用者一人ひとりの排泄習慣やパターンが把握され、支援に活かされている。早めのさりげない誘導でトイレでの排泄出来るようにとの支援である。現在、ポータブルトイレの使用はない。トイレの肘掛や手すりの位置を工夫は自立支援にもなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の利用者には食物繊維を多く含む食品やヨーグルトを提供し便秘予防に努めている。	休止中	休止中		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者に入浴時間の希望を聞き、入浴の方法や時間帯など、個人のペースで入浴できるように心掛けている。誘導時に拒否のある利用者には声かけの工夫をしたり、時間の配慮をしている。	休止中	休止中	お湯は毎日準備ができており、希望する方は何時でも入浴ができる。入浴順や入浴時間に特には決まりもなく、ゆっくりと入浴を楽しめる。お湯の温度を夏場と冬場で変えたり、脱衣場との室温差を無くして不測の事態を予防している。	

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/A)	自己評価(ユニット名/B)	自己評価(ユニット名/C)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	1日の生活リズムを守りつ つ、年齢、身体の状態等に 合わせて午睡や休息も取り 入れるようにしている。一人 ひとりの気持ちや意思を尊 重し、寝具の工夫や本人が 使用していた物の持ち込 み、休息などにも配慮して いる。	休止中	休止中		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的 や副作用、用法や用量について理解 しており、服薬の支援と症状の変化 の確認に努めている	調剤薬局から薬の名前、作 用、副作用などの説明書を もらい、スタッフが目を通し て把握できるようにしてい る。処方変更や臨時薬がで た場合も説明書をもらい、効 果や副作用等について伝達 し把握できるようにしてい る。	休止中	休止中		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ご せるように、一人ひとりの生活歴 や力を活かした役割、嗜好品、楽 しみごと、気分転換等の支援を している	ご家族からの情報をもとに 本人の意思を尊重しながら 役割を決めている。食事の 準備、後片付け、食材の下 ごしらえや、洗濯物干しやた たみを行ってもらっている。 翌日の日付交換など能力に 応じ、必要に応じて見守り の中で行なわれ、役割意識 が高まり喜びにも繋がって いる。趣味の生け花や書道 にも取り組まれている。利 用者から嗜好品の購入希望 があれば代理で購入している。	休止中	休止中		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ つて、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普 段は行けないような場所でも、 本人の希望を把握し、家族 や地域の人々と協力しながら 出かけられるように支援 している	朝の集いで本日の予定のお 知らせを行うと共に利用者 からの希望を聞く機会を設 けている。天気のいい日は 屋外で日光浴も行っている。 また利用者の希望があれば 一緒に散歩に出かけ、地域 と触れ合う機会としている。	休止中	休止中	目標達成票に「外への散歩 回数をふやす」ことが取り 上げられており、実践に結 び付けている。広い法人の 敷地内を散歩したり、外 気浴をしている。近くの 喫茶店に立ち寄ることも ある。手作りの弁当を持 っての花見や、めったに ない夕刻に外出する虫見 学は、利用者の楽しみ である。	

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/A)	自己評価(ユニット名/B)	自己評価(ユニット名/C)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の中で金銭の所持を希望される方、ご家族の理解や協力が得られる方は金額を考慮した上で所持されている。所持されている方は祐徳稲荷神社参拝や初詣の際にお賽銭をあげられている。毎週日曜日に小遣いを現金出納帳の残高と現金を本人に確認してもらいお金に触れる機会を作っている。	休止中	休止中		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホールに設置してある公衆電話をいつでも使用できるようにしている。また金銭を所持されていない利用者をご家族への電話を希望された場合は、事業所から取り次ぐなどの支援を行っている。利用者が活動で作成したはがきを利用して年賀状や暑中見舞、絵手紙を出している。	休止中	休止中		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造平屋建てのホールの天井は吹き抜けで、囲炉裏があり古民家風の建物である。窓は大きく日光は十分に取り入れられる。照明は明るすぎないように調整され、窓には内側に全て障子風の二重戸にし、落ち着いた家庭の雰囲気を感じられるよう工夫している。室内にクラフトでの作品を掲示し季節感を出している。	休止中	休止中	広いホールには大きな囲炉裏があり、かつての生活環境を思い出す利用者もある。ソファやテーブルの配置にも工夫がみられる。ホーム全体が落ち着いた色調で統一されており、障子を通したやわらかい光で、明るくて温かい。刺激するような雑音もない。清掃も行き届き、清潔感がある。玄関の生け花には、季節感が感じられる。	

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/A)	自己評価(ユニット名/B)	自己評価(ユニット名/C)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには植木や本棚等を置いてある事で個々の利用者がそれぞれに楽しんでいる。植物が好きな方はご家族が持ってこられた物を居室に置き楽しんでいる。日光に当てたり水遣りを日課にされている。長ソファを置いたりして、居場所作りを意識した環境的配慮を心掛けている。	休止中	休止中		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の希望で使い慣れた寝具類を持ち込まれている方もおられる。また個人のTVや家具、趣味や好みの物を持ち込まれ楽しんでおられる方もいる。	休止中	休止中	家族の協力を得ながら、各居室がその方らしく構成されている。馴染の物や好みの品の持ち込みには、特に制限もない。寝具、お気に入りの服、テレビ、手鏡、お化粧品、家族写真などいろいろな物が見受けられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで、床は衝撃吸収フローリング床を使用し、老人カー使用の利用者や歩行が不安定な利用者にもやさしい造りになっている。食堂など共用の場所には囲炉裏があり、床に座り足を降ろしてゆっくりできる。また能力的に難しい方には椅子もあり、極力残存能力を活かした自立支援を行っている。居室の入口には本人の家紋と表札を設置し、自分の部屋という認識をしてもらい安心して生活してもらえるようにしている。	休止中	休止中		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します						
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください				
		ユニットA	ユニットB	ユニットC		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	休止中	休止中	1. ほぼ全ての利用者の	
					2. 利用者の2/3くらいの	
					3. 利用者の1/3くらいの	
					4. ほとんど掴んでいない	
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	休止中	休止中	1. 毎日ある	
					2. 数日に1回程度ある	
					3. たまにある	
					4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	休止中	休止中	1. ほぼ全ての利用者が	
					2. 利用者の2/3くらいが	
					3. 利用者の1/3くらいが	
					4. ほとんどいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		休止中	休止中	1. ほぼ全ての利用者が	
		○			2. 利用者の2/3くらいが	
					3. 利用者の1/3くらいが	
					4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		休止中	休止中	1. ほぼ全ての利用者が	
					2. 利用者の2/3くらいが	
		○			3. 利用者の1/3くらいが	
					4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	休止中	休止中	1. ほぼ全ての利用者が	
					2. 利用者の2/3くらいが	
					3. 利用者の1/3くらいが	
					4. ほとんどいない	

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください			
		ユニットA	ユニットB	ユニットC	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	休止中	休止中	1. ほぼ全ての利用者が
					2. 利用者の2/3くらいが
					3. 利用者の1/3くらいが
					4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	休止中	休止中	1. ほぼ全ての家族と
					2. 家族の2/3くらいと
					3. 家族の1/3くらいと
					4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		休止中	休止中	1. ほぼ毎日のように
					2. 数日に1回程度ある
		○			3. たまに
					4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)		休止中	休止中	1. 大いに増えている
					2. 少しずつ増えている
		○			3. あまり増えていない
					4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目:11,12)	○	休止中	休止中	1. ほぼ全ての職員が
					2. 職員の2/3くらいが
					3. 職員の1/3くらいが
					4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	休止中	休止中	1. ほぼ全ての利用者が
					2. 利用者の2/3くらいが
					3. 利用者の1/3くらいが
					4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		休止中	休止中	1. ほぼ全ての家族等が
		○			2. 家族等の2/3くらいが
					3. 家族等の1/3くらいが
					4. ほとんどいない